

都立八国山緑地におけるアメリカザリガニ防除の取り組み

特定非営利活動法人 NPO birth

舟木匡志・内田大貴（西武・狭山丘陵パートナーズ）

1. 都立八国山緑地における取り組み

都立八国山緑地は、狭山丘陵（東京都と埼玉県との県境に位置）の東端にある都立公園である。園内全体がコナラやクヌギなどの雑木林になっており、さまざまな動植物が見られる。その緑地の唯一の水域であるふたつ池は、樹林に囲まれた薄暗い環境にあるため池である。現在は農業用のため池としては機能していないが、かつては、この地域の水田耕作に利用されていた。文献記録を調べると江戸時代にはすでに存在していたことがわかっている。池には、ドジョウやカワリヌマエビ属の一種の他、アメリカザリガニやウシガエルなどの外来種が生息している。池内に植生は無く、アメンボ以外の水生昆虫は確認されていない。



図 1. 近隣公園から望む都立八国山緑地



図 2. 伐採前のふたつ池

2018年に底泥にどのような植物の種子が含まれているか調べるために、底泥をプランターに敷き、埋土種子実験を行った。すると、現地では確認されていない「カンガレイ」や「ヒメミクリ」などの湿生植物の発芽を確認した。このことから、かつては湿生植物の生い茂る池であったことが予測された。地域住民や市民団体とも協議し、この池の生物多様性を向上させるために、湿生植物を形成し、イトトンボ類が産卵できる環境を整備することとした。

池の上空が樹林で覆われており、湿生植物の発芽に必要な照度が不足していることが予測されたため、2019年に池周囲のササ刈りや高木伐採を行い、光環境の改善を図った。翌年の春、湿生植物の発芽を心待ちにしていたが、全く確認できなかった。池内には高密度でアメリカザリガニが生息しており、本種の食害が湿生植物の生育を阻

害していると考えられた。そのため、湿生植物の生育を促進するため、アメリカザリガニの駆除を行うこととした。



図 3.埋土種子実験により発芽した湿生植物



図 4.伐採後のふたつ池

2. ふたつ池でのアメリカザリガニ駆除

駆除は、高齢犬用ドックフードを入れたアメリカザリガニ連続捕獲装置（シナイモツゴ郷の会提供、図 5）をアメリカザリガニの個体数が特に多い北側と南側にそれぞれ 1 基ずつ設置する方法で行った。設置期間は 7 月から 9 月の 3 か月で、おおよそ週に 1 度罟の引き上げと餌の交換を行った（図 6）。引き上げ後は個体数を捕獲装置ごとに記録した。また、池内でのアメリカザリガニの個体数・サイズ変動を定量的にモニタリングするため、設置開始前（7 月）・設置期間中間（8 月）・設置期間終了後（9 月）に、おさかなキラー 5 個を 5 時間設置・回収し、採集個体数と採集個体から任意に選別した 100 個体の甲胸長を記録した。



図 5.使用したアメリカザリガニ連続捕獲装置



図 6.連続捕獲装置引き上げ作業の様子

3. アメリカザリガニ駆除結果概要

アメリカザリガニ連続捕獲装置（2 基）を使用した結果、合計 3,026 個体の捕獲・駆除に成功した。おさかなキラーによるモニタリング調査の結果、事前調査では大型

個体が多く捕獲され、中間・事後調査では、比較的小さな個体が多く捕獲された。この傾向は、事前調査時には捕獲装置の目合い以下のサイズであった繁殖個体が、中間・事後調査時には網内に入網するサイズまでに成長したためと考えられる。

連続捕獲装置は、本種の特徴を活かして広範囲から誘引できるため、従来であればおさかなキラ等を複数使用していたのと同じ成果が1基でも得られ、非常に効率的な駆除が実施できると感じられた。しかし、目合い以下の個体の入網が難しいことから、今後はそのような個体についても連続捕獲装置と併用した効率的な駆除方法を模索し、湿生植物の発芽及び、生物多様性の向上を目指し、活動を継続していく。



図7. 連続捕獲装置1基あたりに入網したアメリカザリガニ



図8.アメリカザリガニ（成熟個体）